様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４５２１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１０８７９

研究課題名（和文）脳死・生体肝移植を受けたアルコール性肝障害患者の断酒を主とした健康行動の解明

研究課題名（英文）Alcoholic liver disease patients who have undergone brain death or living donor liver transplantation Health Behaviors of Alcoholic Liver Injured Patients

研究代表者
山田　隆子（Yamada, Takako）

姫路獨協大学・看護学部・准教授

研究者番号：６０３８２３６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：アルコール多飲による肝不全で肝臓移植を行った患者11名を対象に，断酒などの健康行動継続群と困難群で健康行動に関する質問紙調査（2種）とインタビュー調査（30～40分程度）を行った。分析の途中であるが現時点では、健康行動に影響を与える患者の思いとして、5つの概念[ドナーと移植前とかわらぬ対等の立場を維持する][移植肝は自分の肝臓ではないと思う][飲酒をしていない自分に価値を見出す][飲酒しないことで体調の良さを実感する][飲酒をしたらひとでなしだと思う]があることが明らかになった。「新たな価値の見いだし」が断酒などの健康行動の継続に影響を与えていることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アルコール多飲により肝不全を呈し、肝移植を検討する患者に対して、断酒は必須であるものの、長年の悪しき生活習慣の変容は容易ではない。本研究は、断酒等の健康行動の継続群と困難群を対象に調査を行った。「新たな価値の見いだし」が望ましい健康行動に影響を与えていることが示唆された。本研究での知見は、医療者が行う療養指導のなかで、患者が「価値の転換」の必要性に気づくような支援を行うためのヒントとなりうると考える。

研究成果の概要（英文）：A questionnaire survey (2 types) and an interview survey (30-40 minutes) on health behaviors were conducted in 11 patients who had undergone liver transplantation due to liver failure caused by heavy alcohol drinking, with one group continuing health behaviors such as abstinence from alcohol and the other group having difficulties. The analysis is still in progress, but at this point, the following five concepts were identified as influencing health behaviors: [maintaining equal status with the donor as before the transplant], [thinking that the transplanted liver is not my liver], [finding value in my non-drinking self], [feeling good about my physical condition by not drinking], [feeling like a failure if I drink], and [feeling like a failure if I drink]. I feel like a bastard if I drink. The results suggest that "finding new value" influences the continuation of healthy behaviors such as abstinence from alcohol.

研究分野：臨床看護学

キーワード：アルコール性肝障害　肝移植　看護　断酒

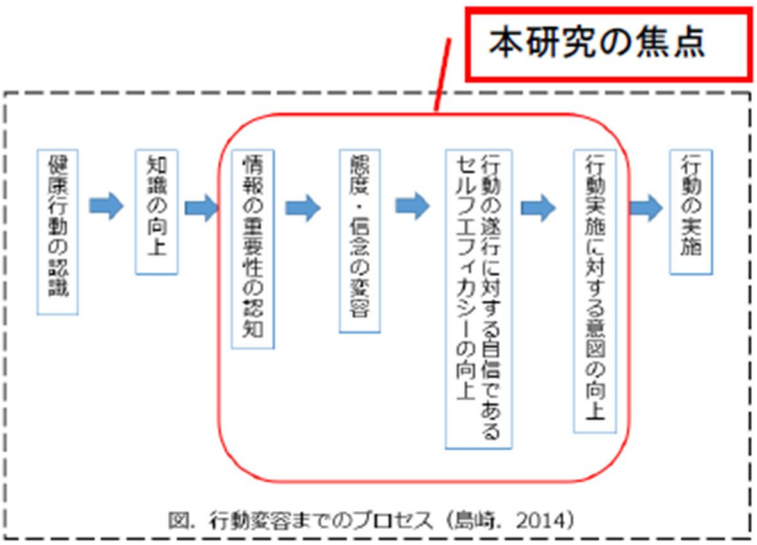
※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｆ－１９－２

## １．研究開始当初の背景

肝疾患の終末治療とされる肝移植は，2021 年で脳死下は年間約 60 例程度，生体間では，361 例[1] が実施されている。アルコール性肝障害（ALD）によって肝移植を受けている患者は，年間 20 例前後が報告されている [2]。ALD は，移植前から生涯に亘る断酒が必須であるが，患者にとって健康を害すまで続けていた悪しき生活習慣を変える事は容易ではなく，肝移植を受けてもなお，20～30%程度の患者が再飲酒してしまうことも報告されている [3] [4] [5]。肝移植は ALD の救命手段の一つであるが究極の Enabling (患者の周囲が尻拭いを続けて病的飲酒を支え，嗜癖行為を助長しているという考え)ともいわれている [2]。先行研究においても，断酒や栄養指導の必要性について多くの論文で述べられているが，その具体的な方法の提示はない。断酒などの健康行動への指導方法の提案は，喫緊の課題である。

望ましい健康行動を取り入れるためのモデルとして，Cavill & Bauman (2004)『階層的変容モデル』がある [6] (下記)。このモデルでは，健康行動をとる変容の過程が，「健康行動の認識」「知識の向上」「情報の重要性の認知」「態度・信念の変容」「行動の遂行に対する自信である Self-efficacy の向上」「行動の実施に対する意図の向上」「行動の実施」のプロセスで説明される。これまで，断酒，栄養指導など望ましい健康行動を患者が取り込めるよう，通常診療や肝臓病教室において，「健康情報の認識」「知識の向上」についての支援が確立されてきた。しかし，それらの支援によっても，臓器障害の治療後に再飲酒につながる事例は多く，「健康情報の認識」「知識の向上」という医療機関や医師個人の努力では限界がある [5] と思われる。「知識の向上」から断酒などの「行動の実施」に結び付けるためには，「情報の重要性の認知」「態度・信念の変容」「行動の遂行に対する自信である Self-efficacy の向上」「行動の実施に対する意図の向上」にあたる部分で患者が知識をどのように受け止め，何を考えているのかを明らかにする必要があると考えた。




書籍の文章元に筆者が図化

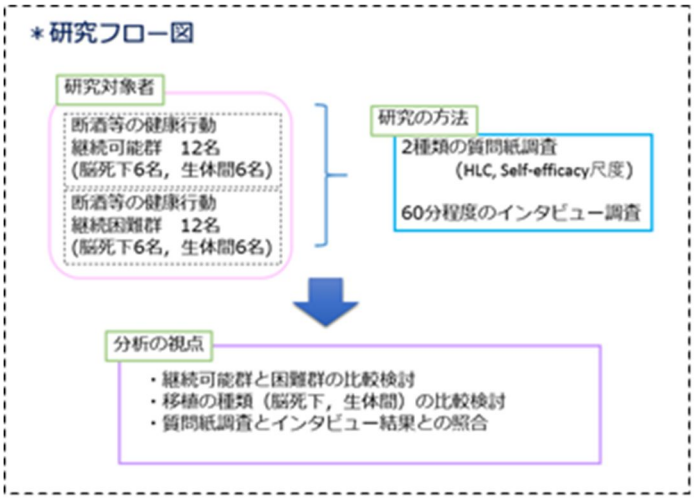
## ２．研究の目的

本研究の目的は，脳死・生体肝移植を受けた ALD 患者 20 名程度を対象に，質問紙調査（2 種）とインタビュー調査を行い，断酒などの健康行動継続群と困難群で，日常生活の健康行動の実態を比較検討し，移植にまで至りながら,断酒等の健康行動が困難である理由を見出し,看護支援による解決法を見出すことである。家族を含めて多くの人を巻き込んで肝移植

を受けていながら，飲酒を再開してしまう日常生活行動について，どのように思い，葛藤し，望ましい健康行動をとることにどのような支障が生じているのかを明らかにすることで，「行動実施に対する意図の向上」を目指した支援のあり方を明らかにする。

## ３．研究の方法

Cavill & Bauman (2004)『階層的変容モデル』を，望ましい健康行動に至るモデルとして用い，下記の様に研究計画を立案した。




アンケートは、健康統制感（HLC：Health Locus of Control）と一般性セルフ・エフィカシー尺度（GSES：General Self-Efficacy Scale）を用いた。Rotter は、物事の結果を決める（コントロールする）力がどこにあると考えるのかを示すコントロール所在を定義した[7)]。HLC は、健康は自分の努力によって得られると信じる「内的統制」と、健康は医療従事者や運によって得られると信じる「外的統制」で構成されている[8)]。GSES は Bundura(1985)によって提唱された Self-Efficacy（ある行動を起こすために個人が感じる「自己遂行可能感」）を尺度化した[9)]。HLC と GSES は使用許可を得たうえで用いた。

尺度で明らかになりにくい、飲酒や断酒の直接的な対象者の思いを聞くため、インタビュー調査も実施した。インタビューの中で，なぜ健康障害を伴うレベルの飲酒行動に至ったかについて明らかにし,断酒を可能にした患者の態度や信念，どのようにセルフエフィカシーを向上させたのか，妨げになったのは何か，について調査した。

分析の視点は，①継続可能群と困難群の群間比較，②移植の種類（脳死肝移植と生体肝移植）の比較検討，③インタビューデータと質問紙結果の比較検討の 3 点である。これらの比較によって，困難群の健康行動の実施の難しさの理由を見出すことで，今後の看護現場における支援の方向性の示唆が得られると考えている。

## ４．研究成果

交付直後からデータ収集を開始した。2019 年度末より、COVID-19 感染拡大の影響を受け、データ収集施設でのデータ収集活動が困難となった。それまでに収集したデータであるアルコール多飲による肝不全で肝臓移植を行った患者 11 名のデータを対象に，断酒などの継続群と困難群で健康行動に関する質問紙調査（2 種）とインタビュー調査（30～40 分程度）を行った。

1）質問調査の結果

対象者は、男性 7 名、女性 4 名の 11 名で、全体の年齢の中央値は 67.0 歳であった。困難群の方が継続群よりも年齢は低かった。

表 1．属性

| | 性別 | | 年齢 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 平均値 | 中央値 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 |
| 全体(n=11 | 7 | 4 | 64.1 | 67.0 | 9.4 | 43.0 | 73.0 |
| D(n=7) | 5 | 2 | 68.1 | 68.0 | 4.5 | 60.0 | 73.0 |
| C(n=4) | 2 | 2 | 57.0 | 58.0 | 12.1 | 43.0 | 69.0 |

継続群と困難群で、Mann-Whitney U 検定（P<0.05）を行った。HLC と GSES 双方の尺度のすべての項目において，困難群と継続群で統計学的有意差は認められなかった。

HLC 全体の中央値は，継続群の方が困難群よりも高いという結果であった。しかし、「内的統制」と「外的統制」の中央値を比較してみると、大差はなかった。

GSES では、困難群の方が継続群よりも中央値が高かった。

「自分はできる」など自信を持つこと、成功体験の積み上げなどで、通常は内的統制がなされ自己効力感は高まる。継続群よりも困難群の方が「自己遂行能力」は高いと予測していたが、この度のアンケート調査では、困難群の方が自身で「自己遂行能力」が高いと判断している様子が明らかになった。

図 2．HLC、GSES の結果

| | Difference(n=7) | | | | | Control(n=4) | | | | | P値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平均値 | 中央値 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 中央値 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 | |
| HLC | 40.3 | 39.0 | 7.4 | 31.0 | 50.0 | 44.5 | 44.5 | 0.6 | 44.0 | 45.0 | 0.788 |
| 内的統制 | 21.4 | 23.0 | 4.0 | 17.0 | 26.0 | 24.5 | 24.0 | 1.0 | 24.0 | 26.0 | 0.244 |
| 外的統制 | 18.9 | 19.0 | 3.9 | 14.0 | 24.0 | 20.0 | 20.5 | 1.4 | 18.0 | 21.0 | 1.000 |
| GSES | 10.1 | 11.0 | 4.2 | 5.0 | 15.0 | 7.6 | 7.0 | 2.2 | 6.0 | 11.0 | 0.412 |

Mann-Whitney U test P<0.05

2）インタビュー調査の結果

現時点で、継続群の一部の分析を終えた。健康行動に影響を与える患者の思いとして、5 つの概念[ドナーと移植前とかわらぬ対等の立場を維持する][移植肝は自分の肝臓ではないと思う][飲酒をしていない自分に価値を見出す][飲酒しないことで体調の良さを実感する][飲酒をしたらひとでなしだと思う]があることが明らかになった。「新たな価値の見いだし」が断酒などの健康行動の継続に影響を与えていることが示唆された。

## ５．今後の研究活動について

4 の研究結果で示したように、断酒や継続飲酒などの「行動実施の意図」は、健康統制感（HLC：Health Locus of Control）と一般性セルフ・エフィカシー尺度（GSES：General Self-Efficacy Scale）では、明確な成果が得られなかった。断酒には、内的統制が働くことで行動化に至ると考えていたが、本研究では現時点でその点は明らかにならなかった。COVID-19 感染拡大の影響を受け、データ収集施設でのデータ収集活動が困難となったため、当初の予定通りの研究対象者数が得られず、11 名のデータでの分析となったことも原因のひとつではないかと考える。インタビューデータの解析をすすめ、継続群と困難群の違いを分析し、肝移植を受けた患者が「断酒」を継続できる要因を明らかにし、今後の療養指導に生か

せる知見を得たいと考える。

## 6. 学会発表

山田隆子，高木章乃夫，八木孝仁，鶴園真理，有森千聖：アルコール性肝障害(ALD:alcoholic liver disease)により生体肝移植を受けた患者が断酒を継続するプロセス（査読あり）、第 56 回移植学会総会（オンライン開催）、2022

山田隆子，高木章乃夫，八木孝仁，鶴園真理，有森千聖，岡田裕之：アルコール性肝障害により脳死肝移植を受けた患者が断酒を継続できるまでのプロセス－1 例の語りを分析して－（査読あり）、日本肝移植学会（紙上開催）、2022

山田隆子：アルコール性肝不全により生体肝移植を受けた患者の断酒への思い－断酒を継続している 1 例の語りを分析して－（査読あり）、日本看護研究学会雑誌，42(3)、2020

引用文献

1）日本移植学会 http://www.asas.or.jp/jst/general/number/　2024.6.20 付

2）木村裕之他：アルコール関連肝不全に対す移植の適応基準に関する心理社会的側面，日本アルコール・薬物医学界雑誌，47(5)，234-241，2012.

3）Egawa Hiroto 他：Significance of pretransplant abstinence on harmful alcohol relapse after liver transplantation for alcoholic cirrhosis in Japan, Hepatology Research, 44(14),E428-E436,2014.

4）岩田みく他：登院におけるアルコール性肝硬変患者に対する肝移植の現状、移植、57 巻. 2022

5）神山真人他：アルコール性肝硬変患者に対する肝移植と取り組み、移植、57 巻. 2022

6）島崎崇史:ヘルスコミュニケーション-健康行動を習慣化させるための支援-,12-17,2016.

7）松本千晶：健康行動理論の基礎、医歯薬出版株式会社、2002. 東京

8）渡辺正樹、Health Locus of Control による保健行動予測の試み、東京大学教育学部紀要、1985：25：299-307

9）板野雄二、東條光彦、一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み、行動療法研究、1986：12（1）：73-82

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>山田隆子，高木章乃夫，八木孝仁，鶴園真理，有森千聖，岡田裕之 |
| ２．発表標題<br>アルコール性肝障害(ALD:alcoholic liver disease)により生体肝移植を受けた患者が断酒を継続するプロセス |
| ３．学会等名<br>第56回日本移植学会学術集会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>山田隆子，高木章乃夫，八木孝仁，鶴園真理，有森千聖，岡田裕之 |
| ２．発表標題<br>アルコール性肝障害により脳死肝移植を受けた患者が断酒を継続できるまでのプロセス－1例の語りを分析して－ |
| ３．学会等名<br>第38回日本肝移植学会学術集会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>山田　隆子 |
| ２．発表標題<br>アルコール性肝不全により生体肝移植を受けた患者の断酒への思い－断酒を継続している1例の語りを分析して－ |
| ３．学会等名<br>日本看護研究学会第45回学術集会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>山田隆子，高木章乃夫，八木孝仁，鶴園真理，有森千聖，岡田裕之 |
| ２．発表標題<br>アルコール性肝障害により脳死肝移植を受けた患者が断酒を継続できるまでのプロセス－1例の語りを分析して－ |
| ３．学会等名<br>第38回日本肝臓移植学会学術集会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 高木　章乃夫<br>(Takaki Akinobu)<br>(80359885) | 岡山大学・医歯薬学域・教授<br>(15301) | |
| 研究分担者 | 八木　孝仁<br>(Yagi Takahito)<br>(00304353) | 岡山大学・大学病院・教授<br>(15301) | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|